



### 紅葉の名所 川前溪谷

紅葉の名所として近年漸く知られて来た石城郡川前村夏井川溪谷を廣く天下に紹介し探勝者の便を計るため後藤平驛長は同地間中同村江田信誠所附近に假ホームを設け又運賃三割引の計画を樹て上申中であつたが不幸許可されぬことになつたので更に何等かの方法により紅葉見物客を誘致すべく宣傳その他を講究中であるが、同計劃に關し地元民が何等の運動もせず無關心な態度であるは誠に遺憾である平驛では詰つてゐる。

### 感想と隨筆 愛兒を失ふ

千代田生  
長女は寂しく死んで行つた。無病にして常に笑聲の絶へない家、これ程幸福なものはない。明日の日曜日は何處へ此の子を伴つて行かうかと思ふ事の出來る土曜日は又尙更である。

悲しいかと言へばありし日の樂しかりしを思ふ程悲しいものはないとある。  
土曜日から日曜日へ、元氣な子供の手をひいて遊びに出た樂しかりし日を思ひ出すことは、死した日を思ひ出す事よりもつとつと悲しい事である。

死の教訓  
醫師が腦膜炎は病名決定が死の宣告であると言つた。  
勿論中には治る者もあらう、しかしそれは一命をとりとめたに過ぎずして殆ど完全に治るものはないと言ふ事である。  
五月一日絶對に快復の見込みなく手當の方法もないと云ふ死の宣告を受けた、もう死を待つより他に方法はない。それで

親としては死を信せられなかつた。何とか方法、手當のある様に思へた、熱もないのに頭を冷し續けた、何物をも探る元氣は勿論なかつたが無理に藥を與へてみた。出來る事なら不具者になつていゝ一命はとりとめてやりたと思つた。

後に親としても子としても不幸なことなど考へてもみなかつた。苦しい時の神だのみで、到底祈つても叫んでも治る見込みない事を宣告されて居ながら一生懸命祈つてもみた。而し何事も無駄であつた。

### 平町人事

出生  
新川町二一田中武雄長男文雄  
南町一仙臺市北六番町一八〇  
眞木光邦二女唯子、三丁目  
一鈴木四郎二女智子  
死亡  
林木町一四勿來町南町四五藤田黄松(四九)  
鼻の藥「チクノール」  
山野邊藥局

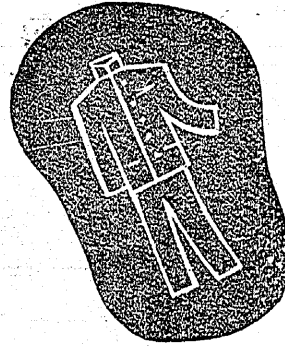
### 學生靴……特賣

定評ある大塚の  
自製靴  
ボツクス耐久 半靴 五〇〇〇  
編上靴 六〇〇〇  
耐久一ケ年保証  
大塚製靴部  
電話七七番

内科 小兒科  
花柳病科  
藤沼醫院  
(入院應需)  
平町紺屋町  
電話平園五〇七番

### 黒小倉通學服賣出

冬服の御用意をなさいましたか  
弊店は御満足の頂ける黒小倉を  
澤山取揃へ特賣にてお務めて  
おります。



小學生用(長ズボン付)  
A.....90.00  
B.....1.10.00  
特製品.....2.50.00  
中學生用  
特製6號.....3.50.00  
御註文(特上).....6.50.00

ふかや洋服店 平三 電20番

### 花柳病科 專門

平町六丁目橋  
木村外科醫院  
電話三〇九番

東神火災保險株式會社 磐城代理店  
東京動産火災保險株式會社  
河田鐵工場  
梅吉  
營業所 福島縣平町白銀町一  
電話三二九番 二九五番  
本社 東京市日本橋通り三丁目  
仙臺支部 仙臺市大町三丁目

外務社員採用  
初任固定給月三十圓  
廿五才以上 男女、を問はず  
履歷書携帶左記へ 面會毎日午後  
平町田町一七  
レストラン サロン方  
仁壽生命平駐在 吉田仁三郎  
電話三五二番

産婦人科 長 木村寅次郎  
外科 醫學博士 内木宗八  
藥局 藥劑師 玄番彌一  
入院隨意 病室完備  
平町新川町十九  
木村病院  
電話一六四番

### 耳鼻咽喉科 專門

平町田町七十番地  
山内醫院  
醫學士 山内亨吉  
電話六九一番

### 耳鼻咽喉科 專門

### 氣管食道科 專門

病室完備：自炊の便あり  
平町南町 大和田醫院  
電話一七〇番

### 專門内科一般

内科ハ何デモ診療致マス  
呼吸器病バカリデハアリマセン  
平町南町六五改(電話二八一番)  
川井内科診療所  
醫學士 川井重子  
女醫 川井安子

石炭 平驛前  
コークス 阿部石炭店  
玉炭 電話三七番